

---

 一般論文
 

---

## 『路女日記』の食記事に関する分析調査（第6報）

Analysis investigation concerning food article "Michi Jyo diary"(part6)

樋口千鶴, 根津美智子, 依田萬代, 鈴木耕太, 鈴木睦代  
Chizuru HIGUCHI, Michiko NEDU, Takayo YODA, Kouta SUZUKI, Mutuyo SUZUKI

## 概要

前報<sup>1-5)</sup>に続き『路女日記』<sup>6)</sup>の嘉永2年～7年, 安政2, 3, 5年の9年間に記載された食記事の中から祭事に関する記事の分析を行うとともに、江戸時代における祭りの状況について調査した。

江戸時代, 江戸っ子と祭りは切っても切れないものであった。祭りは信仰心が顕在化したものといえ、厄祓いや招福を願ったものである。祭りだけでなく、神仏への参詣や家庭内に祀ることも盛んであった。その背景には病気や災厄に係ると当時最も身近な解決方法として神仏に頼ることにあったからである。

信仰心が深かった滝沢家も例外なく祭事に関する記事が『馬琴日記』<sup>7)</sup>に続き『路女日記』においても顕著にみられた。祭りに関する食記事をまとめると諸神に供えたとの記載が最も多く、日記にはすべてが書かれていないことを考慮すると諸神に礼拝するのはこの時代日常なことであったといえる。今でも神棚を祀っている家庭では毎日水などを供えているが当時は更に丁寧な対応がなされていた。観音祭や甲子大黒天, 天満宮などは参詣の日が決まっており、これは現在でもみられる。祭礼に参加できない時などは神影を飾って祀ることも多く、信仰心の深さを感じた。その際、神仏に供物を供え、その供物と同じものを食していたことから神仏への謝恩ばかりでなく、同じ食事をするによりその霊験を体内に取り込もうとしたのではないかと考える。路の晩年は病気や家内での心配事が多かったこと、また幕末期という世情や大地震などによる災害も影響して神仏に頼ることで安心を得ようとしていることを伺わせる記事内容であった。

## 1. はじめに

『路女日記』の祭事に関する記事に記載された食品・食物や参詣などの状況から滝沢家の神仏に対する思いを明らかにし、江戸時代後期の人々の生活と信仰について推察することを目的とした。

## 2. 調査方法

『路女日記』に記された嘉永2年(1849)から安

政5年(1858)の9年間の食記事の中から祭事に関する記事を抽出し、整理した。祭事は主として祭礼参加, 寺社参詣を中心にとりあげた。あわせて記載回数が多い墓参に関して、また当時の寺社仏閣についても調査を行った。安政4年は未発見であるため調査外とした。

## 3. 結果および考察

江戸時代, 生活の不安をもたらす最も大きな要

因は病気であった。病気の治療には薬があるか買えば第一に用い、次に巻で効果があるといわれる民間療法を試し、最終的には信仰医療に頼る方法がとられていた<sup>8)</sup>。なかでも信仰が重要な地位を占め、病気はなだめ鎮めるものという考えから病気になると寺社に頼り神仏に祈祷して病の治癒を願った<sup>9)</sup>。『江戸神仏願懸重宝記』には願かけ方法の例が紹介されている<sup>8)</sup>。日記には路のみならず誰その体調が悪いなどの記載とともに神仏に関連した事項「定吉小兒疱瘡につき八幡宮掛物貸し遣わす」などが詳細に書かれていた。

江戸時代、江戸の寺社は1,000社以上存在しており<sup>10)</sup>、神仏習合の形態をとるものが多く、神社が同一の敷地内に建立された別当寺院に付属している場合<sup>8)</sup>があった。日記に記載されている大黒天も経王寺に祀られている「火伏せの大黒天」と考えられる。また鈴降稲荷別当願性院の記載もみられる。江戸の人々にとっては祈願の場として、祭礼の場として、人生儀礼・供養の場として多彩な社会的機能を有していた寺社が必要不可欠であり<sup>8)</sup> 神仏を中心とした生活が行われていた。各々の寺社にはご利益が複数あり、それに応じた寺社を選んでしたが、すべてのご利益が利くとは考え

ていないので多数の寺社に参詣していた<sup>9)</sup>。

嘉永2年から安政5年までの祭事に関する食記事を表1、2に示した。「諸神に神酒や供え物」の記載が46、次いで甲子大黒天に関する食記事が31、庚申尊象が28、金比羅様18、御稲荷16の順であった。神酒や供物を供えるのは元旦、5月5日、7月7日、祭礼の日などの日付からハレの日であったことが読みとれた。供え物としては神酒125、備え餅94、供え物52、七色ぐわし31、さきげ飯・赤剛飯13、供米9、茶飯7、餅は季節や行事に対応したものとして鏡餅、粟餅、神在り餅、水餅、柏餅、あずきだんごなどがみられた。同様に旬の果物も供えられ、祥月忌と同日の場合は料供（一汁二菜など）を霊前のみではなく神像にも供えることもあった。その後「一同食す」とあり、神仏と一緒に同じものを食べるにより霊験を体内に取り入れることを期待していたと考える。神像に供える場合は神酒、備え餅、七色ぐわしが一揃えとなっているものが多くみられた。表2からもわかるように祭礼や参詣、墓参りなど詣でることができない時でも神像、霊前に供え物は欠かしていない。供えられない場合にはその事由をわざわざ記載していることから神仏への供え物にも重き

表1 祭事にみられる食記事

	嘉永2年	嘉永3年	嘉永4年	嘉永5年
1月		27日 庚申尊像床の間二かけ奉り、神酒、備餅、七色菓子	元旦 諸神に神酒 14日 諸神に神酒 18日 諸神に神酒	1日 福茶、諸神へ神酒 2日 福茶、神酒 6日 福茶、諸神へ神酒 11日 神酒 15日 諸神へ神酒
2月		1日 甲子大黒祭、神酒、備餅、七色菓子 19日 稲荷祭御守札、赤剛飯、神酒、備餅、七色菓子	1日 稲荷午祭 妻恋稲荷神像、世継稲荷神像、鈴降稲荷床間奉掛、神酒・備もち、七色菓子、今日終日茶を不煮、素湯 3日 庚申につき神像を床の間奉掛、神酒、供物	9日 庚申祭神像：供物 13日 甲子祭：神酒、備もち 18日 稲荷祭宵宮：赤飯、にしめ、神酒、七色菓子、水、赤飯、煮染 26日：彼岸の入り 持仏に唐だんごきな粉付き
2月(閏)				21日 亀戸天神：土産 田舎おこし 25日 天神祭：神酒、備餅
3月		28日 庚申尊像床の間二かけ奉り、神酒、備餅、七色ぐわし	10日 象頭山に参詣神酒、備餅供 15日 一ツ木不動尊に御供米	3日 諸神：新酒、備え餅 14日 大黒天：神酒、供物 17日 観世音：供物 28日 不動尊：神酒、備餅

4月		1日 纏神江参り、玄米 2日 甲子大黒祭、神酒、七色ぐわし、備餅	10日 一ツ木不動尊御供米疋袋寄進。象頭山に神酒、備もち 28日 一ツ木不動尊に参詣神酒、供物	13日 堀の内妙法寺：土産 くわし、麦こがし
5月			5日 諸神へ神酒 28日 不動尊に神酒、備餅、供物	5日 諸神へ神酒、備もち 10日 庚申祭神像：神酒、備もち 14日 大黒天：神酒、供え物
6月	21日 天王祭礼、赤飯	4日 甲子祭、如例供物、神酒	9日 甲子に付大黒天に神酒、供物 17日 一ツ木不動尊に参詣白米1袋	
7月	10日 浅草観音、御供米		28日 不動尊へ神酒、備餅・梨子	7日 諸神へ神酒 12日 庚申：神酒、梨子 16日 甲子、大黒天：神酒、備餅、七色ぐわし、神酒、供物 17日 観音様：供物、梨子 22日 堀の内妙法寺：土産 麦コガシ 25日 天満天神象：供物
7月(閏)				
8月	5日 つま恋神主、御洗米 7日 富士講、神水、干菓子、備餅、せん茶、餅菓子、せんべい、餅 21日 天王様御供物、やきさつまいも、水飴、有平	1日 庚申諸神江、神酒、七色ぐわし 5日 甲子大黒天祭、七色菓子、備餅 15日 八幡宮神象床間二奉掛、神酒、備餅 28日 不動尊の神影奉掛、神酒、七色菓子、備餅	3日 一ツ木不動尊に御米 10日 甲子につき大黒天に神酒、備もち、七色菓子、梨子 15日 己巳につき弁天并に八幡宮へ神酒、七色ぐわし 25日 天神画像奉掛、神酒、供物 28日 不動尊に神酒、七色菓子、備もち	1日 諸神へ神酒
9月	5日 神田祭、鯛	17日 観音祭、七色菓子	10日 象頭山に神酒、備もち、せんべい、供物 17日 観世音へ備もち、七色菓子 28日 不動尊へ神酒	9日 諸神：神酒 10日 象頭山参詣：神酒1樽、備餅 13日 神像：だんご、神酒、栂榴 14日 大久保鬼王権現：豆腐 17日 甲子、大黒天神像：神酒、備餅、七色ぐわし 19日 氏神祭礼：饗
10月	28日 雑司ヶ谷参詣、粟煎餅、粟餅、せん茶	2日 甲子祭、神酒、備餅、七色菓子 6日 甲子大黒祭、神酒、備餅、七色菓子 13日 祖師御命講、赤剛飯、にしめ 17日 観世音、供物	7日 庚申に付神像床の間へ奉掛、神酒、供物、備餅 10日 象頭山に参詣神酒1樽 12日 大黒天へ神酒、供物 29日 一ツ木不動尊へ百度を踏、手拭、神酒	27日 諸神：備酒
11月		16日 観世音尊像、七色ぐわし、備餅 27日 不動尊、御供米		13日 諸神：神酒・備もち 14日 庚申：神酒、備もち、みかん 17日 願性院星祭：供物 18日 甲子大黒天：神酒、備もち、供物 19日 諸神・家廟：赤剛飯 25日 天神神像：供物みかん、備もち 28日 象頭山不動尊：白米1袋納
12月		3日 庚申祭、神酒、七色菓子 7日 甲子大黒天祭、神酒、供物 17日 観音祭、備餅、七色ぐわし 21日 伏見煤払、煎茶、地大こん、海老、八つがしら煮つけ 23日 金比羅権現、不動尊、家廟諸霊位、神在餅	4日 諸神に神酒 8日 庚申につき神像を床の間奉掛、神酒、供物 12日 甲子に付大黒天に神酒、供物 17日 観世音に供物 22日 象頭山、不動尊・水餅	25日 節に付き家廟：神在餅、神酒、福茶 29日 諸神・家廟：備餅

	嘉永6年	嘉永7年	安政2年	安政3年	安政5年
1月	元旦 諸神に神酒、 6日 諸神に神酒 7日 諸神に神酒 14日 神棚掃除し、諸神に神酒、 龍神に水、福茶 15日 庚申 床の間二奉掛、神 酒、供物 17日 尾岩稲荷に代参拜、鏡開 18日 諸神に神酒 19日 甲子、大黒天に神酒、供 物 25日 天満宮 神酒、備もち 28日 不動尊に神酒、備もち 29日 赤坂鈴降稲荷に白米	元旦 諸神に神酒 3日 諸神に神酒 14日 龍神に水		2日 庚申：供物 6日 甲子大黒天：供物、 諸神：新酒 14日 龍神：水 17日 諸神：新酒 18日 初穂：白米5合 29日 願性院：供米	10日 金毘羅様、ささげ 飯 28日 不動尊、供物
2月	17日 観世音に備もち、供物供 二ノ午祭後 田安世継稲 荷・妻恋稲荷神像床間に 奉掛、神酒、備餅、七色 くわし、ささげ飯、煮染 物	6日 尾岩様に鏡餅	25日 三ノ午祭：世継稲 荷・妻恋稲荷神像； 神酒、備もち、さ さげ飯、にしめ、 菜からしあへ 天神：備もち 27日 庚申：神酒・供物	6日 妻恋・田安・鈴降稲 荷：神酒、供物、赤 飯 諸神：備え餅 17日 観音：供物	12日 初午祭、赤飯、煮 染、皿、からしあへ 稲荷様神像に供し、 家内一同祝食、神 酒、備もち、御水 14日 庚申祭、神酒、供 物、ささげ飯
2月(閏)					
3月	3日 諸神に神酒、備え餅 10日 金毘羅神像に神酒、供物 16日 庚申 床の間二奉掛、神 酒、供物 20日 甲子、大黒天に神酒、供 物	3日 上巳祝義諸神に神 酒 21日 庚申につき神像床 の間に奉掛、神酒、 供物 25日 尾岩稲荷備もち供、 甲子につき大黒天 に供物	1日 甲子大黒天：備も ち 25日 天満宮祭：供物	7日 甲子大黒天：供物、 茶飯 18日 観世音：備もち 25日 天満宮：備え餅	10日 金毘羅様、赤飯、 にしめ、終日精進 12日 天王様、神酒
4月	10日 倉太郎宮参り諸神に赤剛 飯 20日 牛頭天王に宮参り、四谷 天王に参詣御初尾(菓子) を供し神酒、御守札を請 諸神に神酒 28日 一ツ木不動尊に神酒		25日 天満宮神像：備餅 28日 庚申：供物	17日 観世音祭：例の如く 25日 天満宮：供物	10日 金毘羅様神像、神 酒、備餅
5月	5日 諸神に神酒 17日 観音祭：備もち、供物 28日 象頭山と一ツ木不動に神 酒	3日 諸神に柏餅 5日 諸神に備え餅 22日 庚申に付、御画像 床間奉掛、神酒、 供物、備もち 26日 甲子に付大黒天に 茶飯、供物 29日 痘瘡神に備もち	3日 甲子：豆飯 大 黒天：備餅、七色 くわし、豆の飯 8日 御画像床の間：備 え餅、くわし	4日 庚申祭：神酒、供物 5日 諸神：神酒 17日 諸神：柏餅 25日 天神尊像：供物 27日 願性院：供米	10日 金毘羅様、ささげ 飯、神酒、備餅
6月	21日 天王祭礼で赤剛飯 よそ から頂く		29日 庚申：神酒、備も ち、くわし	9日 終日茶断ち 25日 天神画像：供物 30日 痘瘡神：備え餅	10日 金毘羅大権現、さ さげ飯、備餅、七 色くわし、巴旦杏
7月	21日 甲子、大黒天祭床間二奉 掛神酒を供えるところ無 人なので代物	23日 庚申に付神像に神 酒、備もち 27日 甲子に付大黒天神 像になし、備もち、 茶飯	3日 甲子祭大黒天：き から茶飯、備もち 5日 水天宮：備もち 7日 諸神：神酒 17日 観世音：備餅 29日 痘瘡神：赤備もち	5日 庚申：神酒、備え餅、 七色くわし 7日 諸神：備え餅、神酒 9日 甲子：茶飯・一汁一 菜、大黒天：備え餅、 七色くわし、神酒 23日 金毘羅様：備え餅 25日 天神様御尊象：供物 梨、巴旦杏 28日 不動尊・道了様縁日： 備え餅	
7月(閏)	10日 象頭山に参詣神酒 17日 観世音祭諸神にだんご 20日 おいわ稲荷に参詣、鏡餅 29日 痘瘡神に備もち	20日 自、倉おいわ稲荷 に参詣、鏡餅			
8月	15日 諸神にあぶきだんご 八幡宮神像床の間に奉掛 し、神酒、柿	9日 妻恋稲荷へ虫封御 守請取に白米1袋 24日 庚申に付神像に神 酒、柿、柘榴 25日 天満宮に備もち、 柘榴 26日 おさち尾岩稲荷に 参詣油揚げ 28日 甲子に付大黒天に 茶飯、神酒、備餅、 柘榴	1日 諸神：赤小豆飯	25日 天満宮神像：柘榴、 柿	

9月	18日 庚申、床の間に御画像奉掛、神酒、供物	9日 重陽祝儀、諸神に神酒 29日 荒神様、痘瘡神に備餅	4日 大黒天：供物、きから茶飯	6日 庚申：神酒、備え餅、七色ぐわし 9日 諸神：備え餅 10日 甲子大黒天：きやら茶飯、神酒、備え餅、七色ぐわし 25日 天神様：備え餅 30日 諸神：備え餅
10月	10日 痘瘡咒金びら様天狗のめん拜借（痘瘡が伝染している） 13日 祖師会式、赤剛飯、煮染め	25日 庚申に付神像を奉掛、神酒、備もち、供物 29日 甲子に付大黒天に茶飯、備餅、七色ぐわし、みかん、神酒 30日 痘瘡神・荒神様に備餅		18日 観音祭：供物 25日 天満宮神像：供物
11月	19日 庚申祭御神像床の間に奉掛り神酒、七色ぐわし、備えもち 23日 甲子につき大黒天神像床の間に祭神酒、供物、茶飯 26日 橋正木稲荷へ札参り、星祭守札、供物持参 29日 痘瘡神に備餅	3日 午刻冬至に付諸神に備餅 10日 象頭山に参詣倉太郎病氣癒御礼備餅納	1日 庚申：供物 5日 大黒天：神酒、供物、茶飯、贈	6日 庚申神像：神酒、みかん、柿 10日 甲子大黒天神像：豆飯、供物、備えもち、神酒 象頭山縁日につき神像：神酒、備え餅、供物 23日 顕性院星祭り：供米
12月	30日 諸神に神酒、鏡もち備夕方福茶、痘瘡神赤紙を布、赤備もち	10日 倉と象頭山に参詣、神酒 17日 節分で諸神に神酒、夕方福茶 30日 痘瘡神に備餅。紅色にぬる、観世音に供物、七色ぐわし、みかん	27日 諸神：神酒	2日 諸神：備え餅 27日 諸神：神在り餅 30日 諸神：備え餅 竈神：水

原文のまま記載

を置いていることが伺えた。備え餅は神事に用いられたものが祝い事や晴れの日にも登場し、甲子の日、庚申の日に用いていた七色菓子（「守貞謄稿」では七種菓子の表記）<sup>11,12)</sup>が日記には観音祭や稲荷神像などにも供えられていたことから、供え物の利用範囲の広まりが伺える。

また祭礼の種類により供え物が特別なものもあり、大久保鬼王権現には湿疹・腫れもの平癒のために豆腐を納め、治るまで豆腐を断つ「豆腐断ち」というものがあつた。嘉永5年9月14日の記録には鬼王権現を参詣し、完治祝いとして豆腐を納めたとの記載がある。

日記には痘瘡、腫れもの、虫封じなどの症状やその対処法などの詳細な記載がみられた。

江戸時代最も恐れられていた流行病「御役三病」の1つであつた痘瘡は当時蔓延しており、死因の第1位となつていて死に至らずとも身体への後遺症が大きく恐れられていた。有効な治療法などはまだなく、まじないや食生活に気をつけ、神仏に頼るしか手だてが無いことから痘瘡神を祀りあがめていた<sup>9,13)</sup>。痘瘡神は赤色のものを嫌うといわれ、日記にも備え餅を紅色に塗るという記述がみられた。嘉永6年には痘瘡が大流行し、金ぴら様

の天狗面を拝借したとの記載もあつた。痘瘡神を祭る寺社としては稲荷社も担っていた。

稲荷社は武家および市中に数多く存在し、1つの町に少なくとも1社から2社はあつたといわれている<sup>14)</sup>。稲荷信仰のご利益は五穀豊穡、招福、商売繁盛であり、参詣人は神の使いとしての狐を霊物視して好物である油揚げを供え、初午詣には小豆飯、からし菜のみそ和えが食べられていた。また狐の持つ憑依性から突発的に流行した病と関連付けられ稲荷神もまた流行神の1つと捉えられていた<sup>9)</sup>。表2からわかるように稲荷参詣には記載されたものだけでも8社あり、記載延べ数が多い。路をはじめ家族の健康状態や年齢により近場の稲荷社で済ますことも多く、1番近いところでは尾岩稲荷社がある。四谷左門町にあるので左門町稲荷ともいい、日記にその名もみられる。由緒としては田宮家邸内の社をお岩が篤く信仰し、夫の伊右衛門と仲睦まじく支えて家勢を再興したことからその社のご利益があるとして信仰する者が多くなり邸内に祠を造つたのが始まりである。日記ではこの尾岩稲荷社参詣のみで延べ233の記載がみられた。主におさちの参詣であり、再婚したことによる夫婦円満などを祈願したのかもしれ

表2 嘉永2年～安政5年に記載された祭事一覧

延べ記載回数	祭事名及び対象社寺名	奉納食物	延べ記載回数	祭事名及び対象社寺名	奉納食物
15	天王祭、参詣 ①牛頭（四谷）天王	赤飯（頂き物としても） 焼きさつまいも、水飴、有平糖 御初尾（菓子） 神酒	16	天満宮、八幡宮参詣・ 神像 ⑭平川天満宮 ⑮千駄ヶ谷八幡宮 ⑯市ヶ谷八幡宮	神酒、備え餅、七色菓子 ざくろ、柿 みかん、梨、巴旦杏
25	観音祭、参詣 ②浅草観音 ③梅窓院（青山）観音	御供米 神酒、七色菓子、供物、備え餅 梨子 だんご みかん	61	不動尊（神影）、参詣 縁日 ⑰一ツ木不動尊（威徳寺） ⑱目黒不動尊	神酒、七色菓子、備え餅、梨子、 水餅 神在餅、せんべい、油あげ 御供米（白米）
36	庚申尊象（かけ物として）	神酒、備え餅、七色菓子、梨子、 供物、みかん、柘榴、ささげ飯	267	金毘羅権現（神影）、 参詣 ⑲虎の門金毘羅宮 ⑳天王様社内金毘羅様	神在餅 神酒、備え餅、せんべい、水餅 白米 ささげ飯、赤飯、にしめ、神酒、 備え餅、七色ぐわし、巴旦杏、 梨
37	甲子大黒祭 ④経王寺	神酒、備え餅、七色菓子、梨子、 茶飯、豆の飯、黄から茶飯、膾 甲子：茶飯、一汁一菜 大黒天：備え餅、七色ぐわし、 神酒	5	神田祭 ⑬神田明神 氏神祭礼	鯛 鱧
307	稲荷参詣・祭りなど ⑤豊川稲荷 ⑥尾岩稲荷 ⑦正木稲荷 ⑧鈴降稲荷 ⑨大久保鬼王権現（稲荷） ⑩世継稲荷（築土明神） ⑪妻恋稲荷 ⑫矢場稲荷 伏見稲荷神像	神像：神酒、備え餅、七色菓子、 不茶（素湯）の記載もある 神主へ：御洗米 宵宮：赤飯、にしめ 供物、ささげ飯、煮染物、菜からしあへ 鏡餅納む 白米（虫封じ守り請取り） 油揚げ 豆腐 初午祭、二の午祭、三の午祭： 赤飯、煮染、皿、からしあへ 煎茶、地大こん、海老、八つ頭 煮つけ	128	⑳深光寺参詣	備え餅、白米、煎茶、菓子、 四十九日もち、まんちゅう、薄皮もち
15	嬬神	玄米	3	祖師御命講 ㉑堀の内妙法寺祖師堂	赤剛飯、にしめ 土産として麦コガシ
8	疱瘡神	備え餅、赤備え餅（紅色に塗る）、 柘榴	2	㉒賢崇寺	墓参のみでなく親交多し
2	荒神様	備え餅	1	雑司ヶ谷参詣 ㉓鬼子母神	栗餅、せん茶、土産として栗煎餅
1	星祭り	供米	1	㉔水天宮	備え餅
2	㉕広岳院		1	㉖さめが橋地藏尊	
1	㉗大宗寺畚ま		1	㉘今戸慶養寺	
1	㉙芝神明		1	㉚高野山別院	
1	㉛仙寿院		1	㉜成田不動尊	
1	㉞円通寺御開帳				

\* ○番号は地図上（図1）の所在地を表す

原文のまま記載

ない。豊川稲荷社への参詣も多く、どちらかというとな路の参詣が多かった。豊川稲荷も西大平藩大岡家下屋敷の邸内にあったものである。仏法守護の善神である豊川ダ枳尼真天が鎮座し、商売繁盛、家内安全、福德開運の神として崇められていた。どちらも参詣時の供え物はあまり記載がみられなかった。これは参詣回数が多いため供物については記載を省略したか、またはお参りのみで済ましていたと考える。正木稲荷社にはお百（馬琴の妻）が腫れもの平癒の願かけを行ったとの記載のある石碑も存在する。また倉太郎（路の孫、後改名幸次郎）の病氣平癒のお礼参りを行ったとの記載もされていた。世継稲荷社には馬琴が参詣時に奉納したと考えられる奉納額も戦前まで存在していた。参詣だけでなく神像などの掛物を飾り、わざわざ赤飯、煮しめなどを作り、備え餅や七色菓子なども供えていることから稲荷神への信仰の篤さが伺えた。

次に多かったのが金刀比羅宮への参詣である。金刀比羅宮は讃岐の国象頭山に鎮座していることから別名象頭山といわれている。丸亀藩主京極高豊は本宮の分霊を江戸城の裏鬼門にあたる現在の虎ノ門に遷座した。藩邸であったため毎月10日のみ開放し参詣を許可していた。日記にも「10日象

頭山に参詣。備え餅を供す。」とあった。由緒書きには熱烈なる市民の要望に応え開放としたとあるように路も嘉永4年から2ヶ月に1度は訪れている。ご利益が五穀豊穡、招福除災など広く庶民に尊敬されていたので毎月1度のみ参詣では不安であり、遠いことなどの理由からか路の家から500m位の距離に鎮座している牛頭天王社内の金びら様に数多く参詣していた。牛頭天王社は四谷天王社ともいわれ寛永11年（1634）に神田神社境内の牛頭天王社を四谷のお仮屋横町に祠を建てて移したものである。祭礼は毎年6月18日から始まり、神輿が巡幸し21日に帰社する<sup>15)</sup>。日記では嘉永2年6月21日天王様祭礼とあることからこの牛頭天王社を指すと考える。7日参りや百度を勤むなどの記載がみられるが参詣時には供物はあまり多くなく供米、備え餅程度であり、神影に神酒、備え餅、七色菓子などが供えられていた。これは遠距離の象頭山には重い供物を持参するのは大変であり、また近場の金びら様に参詣する時は日記の記載から25日参りなど日数が連続していたので供物が少なかったと考える。ただ、天王社は稲荷社との2本柱だったにもかかわらず、わざわざ金びら様に祈願していた。このことについては安政年間に入ってからの日記にさち夫婦の仲が悪く将



図1 路宅(★)と記載主要寺社との位置関係地図

来を心配している内容が多くみられていることから様々な神に頼ることで安心を得たかったのかもしれない。

象頭山と共に参詣していたのが一ツ木不動尊である。象頭山からの帰り沿いにある赤坂一ツ木村にある威徳寺のことである（図1）。嘉永5年9月23日の日記では朝6時頃から象頭山、不動尊、その近隣である豊川稲荷まで3時間かけてお参りをしたとの記載もあった。不動尊は不動明王によるすべての願いをかなえてくれる現世利益的の信仰により人気が高かったため路も参詣を欠かさなかったと考える。食記事では不動尊への参詣時にはほとんど供米のみの記載であり、神影には他の神仏同様神酒、七色菓子、備え餅、梨などの記載がみられた。

『守貞謄稿』には「毎月甲子の日には大黒天神像を祭る。二股大根、七種菓子とて七種七銭の籠菓を供す<sup>11)</sup>」とあるが、日記では多くても年6回の祀りのみで大根の記載はみられなかった。参詣よりも神像を飾りつけることの方が多く神酒、備え餅、七色菓子が供されている。前述の経王寺では年6回の祭りを行っていることや近隣であることを考慮すると日記に記載された大黒天は経王寺ではないかと考えられる。大黒天は食厨の神として日本に伝来し、大国主命と習合して福神となっている。ちなみにこの大黒天象は日蓮上人の高弟である日法上人が作られたもので身延山久遠寺から江戸に移し安置したものとされている。

庚申信仰は道教の「三尸説」によるものであり、庚申の日に人間の体内にいる三尸天の司令のもとに罪科を報告してそれにより人間の寿命が決定されるというものである<sup>9)</sup>。このため庚申の晩は精進し寝ずに過ごす風習が広まり、日記にも庚申の掛軸を壁にかけ、供物を供えて一同食すとあった。供物は神酒、備え餅、七色菓子が主に記載されていた。『守貞謄稿』に「江戸にても庚申の日、七種の菓子を売り巡りしとなり。いつれの比よりか、甲子に供すこととなり、売り巡らず店にて売る。<sup>11)</sup>」とあるように神仏に供えるための七色菓子が広く普及していたことが伺えた。

娘さちがこの期間に離婚再婚、出産をしていることから縁結び、子授けの祈願としての稲荷参詣や雑司ヶ谷の鬼子母神への参詣がみられた。鬼子

母神には千人の子供がいたことからそれにあやかり江戸時代では境内の茶店でおせん団子と茶が振舞われ土産にもなっていた。嘉永2年10月28日の日記に団子ではないが「栗餅、せん茶」の記載があった。

また、久留米藩有馬家上屋敷内に祀られていた水天宮は毎月5日のみ庶民はお参りができたので、さちが二男を妊娠した時の安政2年7月5日に「備え餅を納」と記されていた。

観世音祭では浅草寺の観音や梅窓院（青山）の観音に参詣していた。浅草寺の場合は信仰のみだけでなく娯楽の場としても存在する江戸随一の寺社であった<sup>8)</sup>。日記にも縁日の様子や吉之助の帰りの時刻が遅い様子を示した記述がみられた。梅窓院は徳川家の譜代大名、郡上藩青山家の下屋敷に創建された菩提寺であり当時の浅草寺の観音を1番とした三十三観音の1つであり、縁結びと安産のご利益があった。参詣しない場合も安政3年4月17日の日記にみられるように観世音祭例の如くと省略はされているが毎月17日には観世音を祀り供物を供えていた。

天満宮御開帳や八幡宮の参詣では供物の記載はみられなかったが、家庭内に天神画像を掛け神酒と供物は必ず供えていた。千駄ヶ谷の八幡宮には有名な富士塚があり、日記にも富士講の記載がみられた。富士講は富士山に登拝できない信者のために各地に富士塚が作られ参詣を行った。

伊勢内宮や願性院などから初穂料の集金があったことが日記には詳細に書かれており、その返礼として守り札と一緒に赤剛飯などが記されていた。研究紀要第33巻<sup>1)</sup>に赤剛飯の説明など述べてあるが神仏への供えとして備え餅、七色菓子に次ぎ、祭事に多く用いられていた。

祭事ではないが稲荷詣、金毘羅宮参詣の次に墓参りに関しての記載が多くみられた。祖先の祥月忌に合わせて約4km離れた馬琴の菩提寺でもある深光寺をはじめ墓参りを欠かさず、掃除などを行い匂の花があれば必ず飾っていた。供物としては備え餅程度ではあるが、生前好物であったまんじゅうを供えたこともあり、神仏と同様に崇めていたことが伺えた。

表3は安政3年の祭事に関する記事である。省略しているが路のみでなく、娘さち、婿の吉之助、



表 3 安政 3 年祭事に関する記事一覧

1月1日	家廟に雑煮餅、諸神に灯明など	24日	祥月忌につききから茶飯・一汁二菜料供
2日	庚申につき画像に供物を供す	25日	天神様尊像掛け、梨・巴旦杏を供す
6日	甲子、大黒天に供物	26日	長安寺、愛染院、永心寺に墓参り
7日	家廟に七草粥、深光寺に年礼	28日	象頭山、一ツ木不動尊に参詣
8日	伊勢内宮初穂料集金		不動尊縁日につき備え餅を供す
10日	象頭山、一木不動尊に参詣	8月2日	祥月忌につき牡丹餅を供す
14日	神灯、竈神に水	4日	祥月忌につき一汁二菜を供す
16日	新宿太宗寺閻魔王に参詣	8日	天王様社内金毘羅に参詣
17日	新宿に汁粉餅(鏡餅開の餅)、諸神に神酒	10日	象頭山に参詣
	藁笠様御画像に神酒、みかん、くわし	12日	2名の祥月忌につき各一汁二菜を供す
29日	願性院に供米		画像に神酒・もり物を供す
2月2日	伊勢外宮初穂料集金、天王様参詣	15日	家廟に衣かつぎ供す
6日	姜恋稲荷、飯田町安世繼稲荷神像、鈴降稲荷、馬食丁うどんや痘瘡守り丸に神酒、供物、赤飯、神水、諸神に備え餅	17日	観音祭の支度、毎月の百度を勤める
7日	祥月忌につき茶飯・一汁二菜の料供、深光寺へ墓参	25日	天満宮神像に栲榴・柿などを備える(備え餅が無いことを記載している)
10日	象頭山に参詣(おさちは足痛のため参詣できず遺憾の事)	26日	暴風雨に対し、金毘羅様の神号を唱える
13日	浅草観世音に参詣	9月6日	買いもの前に天王様、金毘羅様に参詣
17日	二ノ午祭り、観音様供物		家廟に牡丹餅を供す(祖先の祥月忌など)
21日	大師河原へ参詣(弘法大師?)	7日	天王様社内金毘羅に参詣
26日	琴籠靈前に塩釜おこし、天王御宮参り	8日	深光寺に墓参り
28日	象頭山、一木不動尊に参詣	9日	祥月忌につき茶飯・一汁二菜牌前に料供(毎月の如しとの記載あり)
3月3日	上巳祝儀にて諸神に神灯		諸神に備え餅
7日	甲子、大黒天に供物、茶飯、神灯	10日	祥月忌につき一汁二菜
10日	象頭山、一木不動尊に参詣(屋後吉之助も象頭山に参詣)		甲子大黒天にきやら茶飯・神酒・備え餅・七色ぐわし
17日	観世音に備え餅	11日	今日より天王様社内金毘羅に日参
25日	天満宮に供物		17日まで、18日は家内取り込みのため参詣せずの記載あり
4月4日	祥月忌につき茶飯・一汁二菜の料供	14日	おつきが荒井薬師に参詣延期
9日	家廟に五穀飯に供す	20日	金毘羅様に参詣 21.22.24.26日記載あり
10日	象頭山、赤坂一木不動尊に参詣	22日	祥月忌につき一汁二菜
17日	観世音祭例の如く、祥月忌につき料供	25日	天神画像に備え餅供す
21日	弘法大師御加持水：諸病に効く	26日	天王様に参詣
25日	天満宮に供物		象頭山に百度を踏む
5月4日	庚申祭神酒、供物、神灯	27日	千駄ヶ谷八幡宮祭礼に参詣
5日	諸神に神酒、天王に参詣、同所社内金毘羅権現に日参始める・倉太郎は7歳まで月参	29日	浅草観世音に参詣
6日	金毘羅に参詣	30日	象頭山、一ツ木不動尊に参詣
7日	同上、明日祥月忌につき画像に神酒、備えもち、くわしを供す		諸神(禰神・痘瘡神など)に備え餅を供す
8日	祥月忌につき茶飯・一汁二菜料供、深光寺に参詣	10月1日	金比羅様に参詣(3日~7日まで記載あり)
10日	画像に煎茶、もり物そら豆、天王様に行く	8日	祥月忌速夜につき茶飯・一汁二菜
10日	象頭山、一木不動尊に参詣(屋後吉之助も象頭山に参詣)	9日	深光寺に墓参り
11日	天王様に参詣	11日	天王様に参詣

17日	諸神・家廟に柏餅供す	同上	金比羅様に参詣(17日まで日参、20日～24日、26日記載あり)
18日	祥月忌につき茶飯、一汁三菜料供	12日	金比羅様に参詣(17日まで日参、20日～24日、26日記載あり)
19日	尾岩稲荷・天王様社内金毘羅に参詣	13日	18、19日は雨、25日は小雪だったので参詣しなかったのでは
21日	赤坂円通寺門前、頼母子講に行く	18日	観音祭供物を供す
22日	深川八幡宮社内成田不動尊開帳に参詣	25日	天満宮神像に供物
24日	天王地内金毘羅に参詣、尾岩稲荷に参詣	28日	深光寺に参詣
25日	天神尊像奉掛供物を供す	29日	祥月忌につき一汁二菜
27日	願性院に供米、御初尾	11月2日	象頭山、不動尊に参詣
28日	天王様社内金毘羅に参詣	5日	金比羅様に参詣
29日	金毘羅に参詣(5月5日より今日まで25日間参詣した)	6日	祥月忌速夜夜につきまぼたんもち、柿ぐわし
6月2日	象頭山に相談	6日	画像にぼたんもち、柿ぐわし
3日	吉之助象頭山に日参	7日	画像に神酒・もり物りみかん・串柿を供す
5日	大橋正木稲荷に倉太郎病気全快お礼参り	7日	庚申神像に神酒・みかん・柿を供す
6日	象頭山参詣、天王様社内金毘羅に参詣	9日	金比羅様に参詣
8日	同上	10日	金比羅様に参詣
9日	天王様社内金毘羅に参詣、終日茶断ち	12日	甲子につき大黒天神像に豆飯・備え餅・神酒供す
10日	象頭山参詣、天王様社内金毘羅に参詣	13日	象頭山縁日につき神像に備えもち、供物
12日	象頭山参詣、天王様社内金毘羅に参詣、改名を幸神に奉願	14日	四谷金比羅様、宝蔵時前円通寺大黒天に参詣
13日	象頭山に参詣	14日	金比羅様に参詣
14日	象頭山参詣、天王に参詣	15日	金比羅様に参詣
15日	象頭山に参詣	16日	象頭山、一ツ木不動尊に参詣
16日	象頭山に百度を勤む	17日	金比羅様に参詣(21日まで記載あり)
17日	天王に行く	17日	観世音に百度を勤む
18日	四谷天王様御飯屋に御出につき御興拜見できず	18日	尾岩稲荷二百度を勤む
20日	象頭山に参詣	23日	「天王様御社内金比羅権現日参は当年中につき日々記さず」の記載あり
24日	赤坂に行く、金毘羅様に参詣	12月2日	願性院、星祭り御供米として白米一升、烏目二十四銅寄進
25日	天神画像に供物	8日	諸神・家廟に備え餅供す
26日	深光寺に参詣、天王様社内金毘羅に参詣	10日	金比羅様に参詣のために湯に行く
28日	金毘羅様に参詣	12日	象頭山、不動尊に参詣、
30日	天王様社内金毘羅に参詣、疱瘡神に備え餅を備える(毎月のことなり)	12日	四谷天王様御社内金毘羅権現様に参詣
7月5日	家廟に百合を備える、庚申につき神像に神酒、備えもち、七色ぐわしを供え	13日	天王様御社内金毘羅権現様に参詣
6日	天王様社内金毘羅に参詣	14日	象頭山、金毘羅様のくじの結果を示す記載あり
7日	諸神に備え餅、神酒、神灯、金毘羅様に参詣	14日	金比羅様に参詣
9日	金毘羅様に参詣、甲子につき茶飯、一汁一菜拵え大黒天に供えその他に備え餅、七色ぐわし、神酒、神灯をともす	16日	金比羅様に参詣せずの記載あり
10日	象頭山に参詣、路象頭山にて月並み百度を勤む	17日	祥月忌につき一汁二菜、煎茶、もり物を供す
15日	深光寺、賢崇寺参り	21日	深光寺にて法事
16日	靈棚に料供を備える	27日	諸神・家廟に神在餅を供す
23日	尾岩稲荷・天王様社内金毘羅に参詣、金毘羅様に備え餅納む	28日	深光寺にお歳暮を贈る
		30日	諸神に備え餅、金比羅様日参、今日結願、龜神に水を供す

原文のまま記載

孫の幸次郎、力三郎も寺社に数多く参詣していた。7日参りなどはまとめてあるが1年の半分近く神仏への関連事項がみられ、信仰が生活と密接にかかわっていたことが伺われた。路の晩年は幕末期の政情不安や大地震などの災害、路や家族の病氣、家庭内でのめごとなど生活面、身体面、精神面でも苦勞や不安が多かったことと推察される。その中で神仏に頼ることで救いを求めているのであろう。

このように日記から神仏を中心とした生活が営まれ、それを助ける寺社が祈願の場や祭礼の場として、また人生儀礼・供養の場としても必要不可欠であったことがわかった。そして願いをかなえてもらうためには祈るだけでなく、食物を供え、一緒に食事をすることでその靈験を得てより一層の効果を期待したのではないかと考える。

#### 4. まとめ

江戸時代後期の資料、『路女日記』の食記事から祭事に関する内容について調査分析し、以下の結果を得た。

- 1) 諸神に神酒や供え物の記載が46、次いで甲子大黒天に関する食記事が31、庚申尊象が28、金比羅様18、御稲荷16の順であった。
- 2) 神酒や供物を上げるのはハレの日であったことが元旦、5月5日、7月7日、祭礼の日などの日付から読みとれた。
- 3) 供え物としては神酒125、備え餅94、供え物52、七色ぐわし31、ささげ飯・赤剛飯13、供米9、茶飯7、餅は季節や行事に対応したものとして鏡餅、粟餅、神在り餅、水餅、柏餅、あずきだんごなどがみられた。旬の果物も供えられていた。
- 4) 祭礼や参詣、墓参りなど詣でることができない時でも神像、靈前に供え物は欠かしていない。供えられない場合にはその事由をわざわざ記載していることから神仏への供え物にも重きを置いていることが伺えた。
- 5) 神像に供える場合は神酒、備え餅、七色ぐわしが一揃えとなっているものが多くみられ、少なくとも神酒のみは欠かさなかった。
- 6) 特定の神（疱瘡や腫れもの）の場合は特定の供え物を納めることがあった。
- 7) 神仏のご利益に対応した多数の寺社に参詣し

ていた。祭礼の日にはできるだけ参詣し、日常的には家庭内に神像などを祀っていた。縁日、御開帳など娯楽も兼ねた参詣もみられた。

8) 祥月忌に当たった場合は料供（一汁二菜など）も靈前のみではなく神像にも供えられることがあった。その際料供を一同が食すことにより靈験を体内にとり入れることを期待したのではないかと考える。

9) 新光寺をはじめとする墓参りの記載回数が稲荷詣、金毘羅宮参拝に続いて多く、祖先に対しても神仏と同様に崇めていたことが伺えた。

#### <引用・参考文献>

- 1) 依田萬代,根津美智子,樋口千鶴：『路女日記』の食記事に関する分析調査（第1報）：山梨学院短期大学紀要第33巻p23～35（2013）
- 2) 依田萬代,根津美智子,樋口千鶴：『路女日記』の食記事に関する分析調査（第2報）：山梨学院短期大学紀要第34巻p24～36（2014）
- 3) 依田萬代,根津美智子,樋口千鶴：『路女日記』の食記事に関する分析調査（第3報）：山梨学院短期大学紀要第35巻p13～26（2015）
- 4) 根津美智子,樋口千鶴,依田萬代,鈴木耕太：『路女日記』の食記事に関する分析調査（第4報）：山梨学院短期大学紀要第36巻p15～26（2016）
- 5) 根津美智子,樋口千鶴,依田萬代,鈴木耕太：『路女日記』の食記事に関する分析調査（第5報）：山梨学院短期大学紀要第37巻p11～28（2017）
- 6) 柴田光彦,大久保恵子：灌漑路女日記：中央公論社（2013）
- 7) 依田萬代,根津美智子,樋口千鶴,松本晴美：『馬琴日記』の食記事に関する分析調査（第1報）：山梨学院短期大学紀要第18巻P14～21（1997）
- 8) 竹内誠編：江戸文化の見方：株式会社角川学芸出版（2010）
- 9) 牧野洋編：江戸ものしりなんでも百科：株式会社新人物往来社（1992）
- 10) 黒田涼：江戸の神社・お寺を歩く「城西編」：祥伝社（2012）
- 11) 喜田川守貞：近世風俗志（四）：株式会社岩波書店（2010）
- 12) 喜多村筠庭：嬉遊笑覧（三）：株式会社岩波書店（2009）

- 13) 柳町敬直：ビジュアルガイド江戸時代館：株式会社小学館（2002）
- 14) 花咲一男監修：大江戸ものしり図鑑：株式会社主婦と生活社（1994）
- 15) 『江戸名所図会』でたどる新宿名所めぐり：新宿歴史博物館 編集発行（2011）
- 16) 鈴木貞夫：研究ノート滝沢馬琴の信濃町旧居跡：新宿区立新宿歴史博物館研究紀要第4号 p 21～33（1998）
- 17) 江戸の神社・お寺を歩く「城東編」：祥伝社（2012）
- 18) 江戸切絵図 四谷絵図 嘉永3年製：国立国会図書館
- 19) 須原屋茂兵衛版 江戸大絵図：（1859）